

Weekly コラム

令和5年9月12日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4号館 4階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会)

Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

意外と下がらないドル/円相場、 円建て金は今後も有望

米銀行の経営破綻に端を発した国際的な金融機関の信用不安は、UBSによるクレディ・スイス買収という、過去数年にわたって浮上しては消えることを繰り返してきた大型再編に至りました。2008年のリーマン・ショック型の金融危機に発展する可能性は低いとみていますが、それでも投資環境に大きなリスクをもたらすイベントだったことは間違いありません。急激かつ大幅な利上げは、实体经济や金融市場に強いストレスを与えることで、何らかの形で不測の混乱を引き起こすことは広く想定されていましたが、金融機関の信用不安という展開には意外感がありました。

意外感と言えば、これだけの大きなイベントながらも、ドル/円相場の下げ幅が限定されたことも興味深い現象でした。1ドル=137.91円から129.63円まで下落しましたが、130円割れは短時間に留まりました。「リスク回避の円買い」が全く発生しかなかった訳ではありませんが、この程度かというのが正直な印象です。振り返れば、2022年2月のロシア軍によるウクライナ侵攻の際も、「リスク回避の円買い」は殆ど見られませんでした。なぜ円はリスク回避局面でも大きく上昇しなかったのでしょうか？この問題のカギを握るのは、ドル/円の需給だと思われます。つまり、円買いを相殺する円売り圧力が断続的に発生しているのです。日本の1月の経常収支は2兆円近い大赤字になりました。単月では1985年以来で最大です。

このため、経常赤字が円安を促し、それが更に経常赤字を促す負の循環に陥ってしまった可能性があります。

もちろん、経常収支はドル/円の資金フローの一部を構成するだけですが、米連邦準備制度理事会(FRB)の利上げ早期終了観測から米長短金利が低下しても、ドル/円相場の値崩れは回避されています。金利環境に注目すれば、FRBの利上げ終了、場合によっては年内利下げ開始の可能性は、急激なドル安・円高を促すのが必至のはずですが、現実にはそうはなっていません。125~130円水準を試すのであれば、米長期金利を現在の3.5%台から3.0~3.2%水準まで引き下げることが必要かもしれません。FRBの利上げ終了議論を受けて、簡単にドル/円相場が崩れるとは見ない方が良いでしょう。早期利下げの議論が遠のくと、130円台中盤から後半を維持する可能性も十分にあります。

そして、米利上げ終了と円安が共存するのであれば、ベストの投資先は円建て金相場となります。3月に過去最高値を更新していますが、小売価格が1グラム=1万円、1kgバーが1本=1,000万円に達する時期は、意外と遠くないのかもしれません。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。